

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース) 留学結果報告書

1年間のアメリカでの留学を終え、先日帰国しました。留学中は当たり前のようにアメリカでの暮らしにどっぷりつかっていましたが、日本に帰ってきたら慣れ親しんだ日本での暮らしにすぐに戻ってしまい、今は、本当に1年間アメリカで生活してきたのか、信じられなくなるくらい不思議な気持ちになっています。出発する前は、1年って長いなと思っていましたが、終わってみればあっという間の1年でした。

留学中は、日本文化について考える機会がたくさんありました。留学したらアメリカの文化について学びたいと思っていましたが、異文化を学ぶことで、自分の国の文化について振り返る機会にもなりました。そうするうちに、自分がいかに日本のことを知らないのか、ということに気づかされました。

私がステイした町は、日本に興味を持ってきている人が多く、よく日本について質問されました。しかし、その内容について自分が全く知らなかったり、知っている内容でも、曖昧にしか説明ができなかったりして、とても悔しかったです。

また、何度も日本食店に行ったり、日本アニメのキャラクターを見たりしました。日本文化がアメリカで広まっていることは、とてもうれしかったのですが、その広まり方に少し違和感を覚えました。たとえば、日本食レストランで提供されるものは、アメリカ人の好みに合わせて味付けが濃くなったものでした。見た目もかなり変わっていて、本来の日本食を思い起こすことができないほどでした。その土地に応じて他文化が少し変化することで受け入れられやすくなることは理解できますが、そのままの日本文化も知ってほしいと思いました。そのためには、自分が日本についてよく知らなければなりません。自分にはその知識が足りないことにも気づきました。なんとなく知っているのと、人に説明できる知識を持つことは違うのだとわかりました。

日本では多様性が求められるあまり、どんどん伝統的な日本文化が消えていき、自分も含めた若い世代がそれらに触れる機会が減ってきているように思われます。それは悲しいことだと思いました。今後は、もっと自分から伝統的な日本文化に触れる機会を持つようと思いました。

アメリカでは、楽しいこともたくさんありましたが、それ以上に辛い事のほうが多くありました。多くの壁にぶち当たりましたが、私を一番悩ませたのは言葉の壁でした。

私はアメリカで15名ほどの留学生と交流しました。その中には5人日本人がいましたが、日本人はひときわ目立ってアメリカ人との会話が成り立っていませんでした。他の国からの留学生たちにとっても英語は第二言語であるのに、彼らは英語を母国語のように話していました。日本人が英語ができないことは留学前から知っていたのですが、こんなにも違いがあるのかと大きな衝撃を受けました。

しかし、日本人留学生たちの会話力の拙さは、留学初期こそ目立っていましたが、時間の経過とともに、その差は埋まっていきました。そのことから私が考えたのは、日本人が能力的に劣っているとか、性格的にコミュニケーションが取れないとか、そういう問題ではなく、第二外国語を学ぶ方法に問題があるのかなということです。言葉というのは、人と人をつなぐ道具であって、会話できることが一番最初に大切になることを身をもって体験しました。だから、日本の第二言語の教育でもっと会話することを学べるといいなと思いました。

私は18年間生きてきた中で、こんなにも自分と向き合うことはありませんでした。そのくらい、自分について考えさせられたのが私の留学でした。留学中自分自身と向き合っただけで一番思ったことは「人はそんなに簡単に変わらない」ということです。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース) 留学結果報告書

私は留学して、「自分を変えたい」と思っていました。留学体験者からは、留学のおかげで自分を変えられた、という多くの声を聞きました。私も留学すれば何者かに変われるのではと期待していました。しかし、もともと内気な性格の私は、さらに言葉の壁にぶつかり、自信をなくしていきました。理想の自分と現実の自分とのギャップに葛藤しました。

通学した学校にいたもう 1 人の日本人は、私とは性格が正反対で、前に前にと出ていくタイプでした。同じ時期に留学を始めたのに、その人はどんどん友達を作って楽しそうにしているのを見て、羨ましく思いました。なぜ自分はその人みたいにできないのだろう、と悔しく思う時もありました。自分にないものを持っている人を見て、自分との違いを考え、真似をしようと努力したこともありましたが、しかし、どうやっても同じようにはできませんでした。

悩んだ私は、自分自身について、自分はどんな人間なのか、得意なこと、好きなこと、これからどうなりたいのか、など一から考え直しました。アメリカに来てから、自分が頑張ったことは何だったのか…。私はホストファミリーを大切にしてきたことが思い当たりました。彼らが大切にしていることを自分も大切に、共に過ごす時間を最優先してきました。そういう自分の気持ちが通じたのか、本当の娘のように思ってくれていると感じました。たくさんの経験をさせてもらい、その時間は本当に楽しいものでした。これが私の留学なんだ、私にはこの方法が合っているのだ、と思えるようになりました。

自分にとって良い交流というのは、「広く浅く」より、「狭く深く」する交流だと気づきました。そして、そういう交流を深めるには、個人としての知識や経験の量が大切になると感じました。それは、アメリカ人と交流していく中で、学校生活などの身の回りのことは話せるのに、政治や宗教といった普段考えていないことについては、会話をふくらますことができなかつた経験により気が付いたことです。今の私には達することができなかつた、もっと深い交流をするために、さらなる知識を深めたいと強く思いました。

留学前には外へ外へと気持ちが向いていたのですが、今はもっと日本のことを学びたいと思うようになりました。高校卒業後は、国際的な視野で日本について学びを深めて、それを発信できるようになりたいと考えています。今後、留学を考えている人たちに、留学で自分が考えたこと気づいたことを伝えることができたらと思っています。

留学期間は、日本で過ごしていただけでは考えることがなかつたり、経験することができなかつた多くの体験が詰まった時間となりました。楽しいことばかりでなく辛いこともたくさんありましたが、留学したことを後悔したことは一度もありませんでした。このようにとても充実した時間を過ごせたのは、私を陰で支えてくれた両国の先生方、家族、私の留学を応援してくれたたくさんの方々のおかげだと本当に感謝しています。アメリカの高校生として生活してきたこの 1 年は、私の一生の宝物です。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書



山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (高校生コース) 留学結果報告書

